

CONTENTS

- ①～② 第20回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催
- ③ 研究員レポート
- ④ 情報ひろば
- ⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター MiRAi

第20回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催

第20回となるアジア太平洋フォーラム・淡路会議が、8月2日(金)～8月3日(土)の両日にわたり淡路夢舞台国際会議場(淡路市)で開催されました。テーマは「21世紀のアジア太平洋社会の展望」。

1日目の国際シンポジウムでは、400名の参加のもと、3名の識者による記念講演が行われました。また、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰する第18回アジア太平洋研究賞(井植記念賞)の授賞式も併せて実施されました。

記念講演では最初に「人生100年 共に生きる」と題して、安藤忠雄氏(建築家)が講演を行いました。



兵庫県立美術館には、安藤氏が青春のシンボルとして作成した高さ約3mの『青いりんご』のオブジェが展示されています。安藤氏によると、多くの人は、学生時代までは希望に溢れ、新しい世界を見つめている『青いりんご』です。人は100歳まで『青いりんご』でなければなりません。ただ100歳まで生きるのではなく、自分が家族、社会に何ができるかを考えることが大事であり、『青いりんご』には、こうした思いが込められているのです。

また、ご自身は大学教育や建築の専門教育を受けておられません。だからこそ18歳の時に一生勉強していくと決め、今でも毎日、本を読みながら次のことを考えているそうです。日本の若者は大学を卒業してしまうと、本を読まなくなりますが、安藤氏は好奇心を持って多くの本を読んで学び続けていくことの重要性を強調されました。

さらに、淡路夢舞台をはじめ、これまでに手がけてきた多くの建築や、乱開発ではげ山と化した瀬戸内海の島々での植林、大阪の中心を流れる大川沿いに桜を植える「桜の会・平成の通り抜け」プロジェクトなど、ライフワークとして取り組んできた様々な緑化プロジェクトについても紹介されました。



続いて、「文化力」と地域の発展」と題して、青木保氏(政策研究大学院大学政策研究院シニア・フェロー)が記念講演を行いました。アジアでは21世紀に入り、各国が文化に対して力を入れ始めており、特に文化施設が各地で完成しています。20世紀のシンガポールはどちらかというと文化に対して冷淡でしたが、2000年以降は劇場やアジア最大の国立美術館などが造られるようになりました。また、北京や上海のほか、タイ、インドネシア、台湾などにも大きな文化施設ができ、いいものを造れば世界中から人が集まり、国際的評価につながることになり政府が気付いたのです。

また、そこで重要になるのが文化交流の実践です。訪日外国人数は今や4,000万人を視野に入れています。日本のことを知って、好きになってもらうためにも、大観光化時代には的確に対処しなければなりません。青木氏は、異文化理解の段階から、実践的な文化交流を重ねるためにも、神戸に「アジア・太平洋国際文化学術生活センター」を作ってはどうかと提案されています。神戸で残念に思うのは、文化的に先端を走っていたはずですが、文化力を示すものがないことだと言います。だからこそ、学術研究だけでなく、センター内にショッピングモールを作り、観光客が立ち寄れるような場所となる施設を作ってほしいと述べられました。

さらに、世界的に人を呼び込む取り組みとして、アラブ首長国連邦がアブダビにルーブル美術館を誘致した事例やスペインのビルバオがニューヨークからグッゲンハイム美術館を誘致した事例等を紹介されました。

最後に、「21世紀のアジア・太平洋経済」と題して、ナロンチャイ・

国際防災・人道支援協議会(DRA)活動報告シンポジウム

阪神・淡路大震災25年にあたり、復興のシンボル・プロジェクトのひとつとして整備された神戸東部新都心(HAT神戸)の意義やそこを中心に集積する「国際防災・人道支援協議会(DRA)」を構成する団体の活動等を地域住民など広く県民に紹介することで、DRAとしての総合的な発信力を高めるとともに、各機関の連携をより一層強化し、活動の更なる活性化を図るため、「国際防災・人道支援協議会(DRA)活動報告シンポジウム」が8月27日に神戸市内で開催されました。

基調講演では、DRA会長の五百旗頭真 ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長が、「大災害時代の日本列島～人間の安全保障に向けて～」と題して阪神・淡路大震災からの創造的復興の歩みを振り返り、人間の安全保障を大切にす志の重要性を訴えました。

引き続きDRA会長代行の河田恵昭人と防災未来センター長をコーディネーターに会員団体の活動発表がありました。

国際連合人道問題調整事務所(OCHA)の吉田明子神戸事務所長は、日本政府や国内外の人道支援団体との連

携強化を進めていることを説明した上で、日本人に深く広く根ざしている思いやりの心で人道支援活動への理解を求めました。

国際協力機構関西国際センター(JICA関西)の西野恭子所長・国際防災研修センター長は防災事業での国際的な研修事業を紹介し、国連のSDGs(持続可能な開発目標)について「全ての目標に防災が関連している」として目標達成に意欲を見せました。

アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)センターの塚田源一郎センター長は、地球温暖化時代の国際環境協力に向けた取り組みを説明しました。

世界保健機関(WHO)健康開発総合研究センターの茅野龍馬医官は、災害健康危機管理の重要性が高まっており、より良い防災について健康面から努力していくと語りました。

総括で河田会長代行は、「それぞれが目標を持ちながら、ネットワークを活かして共通の目標に向かって進むDRAの活動に支援を」と呼びかけました。

シンポジウムの概要

【開催日時】 令和元(2019)年8月27日(火) 15:00～17:00

【開催場所】 JICA 関西2階 プリーフィングルーム

【参加者】 110人

【基調講演】

テーマ:「大災害時代の日本列島～人間の安全保障に向けて～」

講師:五百旗頭 真 DRA会長(ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

【団体発表】

コーディネーター・総括:河田 恵昭 DRA会長代行(人と防災未来センター長)

①テーマ:国際緊急人道支援と日本

発表者:吉田 明子 OCHA神戸事務所長

②テーマ:防災分野におけるJICAの国際協力

発表者:西野 恭子 JICA関西所長・国際防災研修センター長

③テーマ:地球温暖化時代の国際環境協力

発表者:塚田 源一郎 APNセンター長

④テーマ:災害・健康危機管理(Health-EDRM)に関する世界の動きと

ひょうご・神戸・日本の貢献

発表者:茅野 龍馬 WHO健康開発総合研究センター医官



「HAT減災サマー・フェス」を開催しました

人と防災未来センターでは、地域防災意識の向上と地元HAT神戸住民の方々の交流の場として、8月24日(土)に「HAT減災サマー・フェス」を開催しました。

平成28(2016)年度の初回から4回目となる今回は、あいにく小雨まじりの天候でしたが、約1,300人にご来場いただきました。

14時から屋外ひろばを中心に行われた「減災縁日」では、昨年度も人気の高かった「ロープワークで流れるプールでボール釣り!」や「かわいいキャンディレイをつくろう!」などのほか、「六甲山の災害展 保水力実験」「体幹バランス競争!」など今回初お目見えの体験ブースに、小さな子どもさんから大人まで多くの方にご参加いただきました。

18時からは、東館南側に「夕涼みカフェ」を設け、減災縁日プログラムの参加ポイントと交換できる「サマーフェスプレート」などを食べながら、地域の方々と和やかに交流できる時間を過ごしていただきました。

その後「ALL HATひとぼうステージ」が河田センター長のあいさつによりスタート。

「夏休み防災未来学校」のワークショップで子供達が制作した「減災だんじり」の初披露のほか、渚中学校放送部が制作した防災映像作品「未来へつなぐ」の初上映や、タバティ・タバタ氏によるライブなどが行われ、大盛況のうちに幕を閉じる一日となりました。



ロープワークで流れるプールでボール釣り



六甲山の災害展 保水力実験



体幹バランス競争



ひとぼうステージ 河田センター長あいさつ



ひとぼうステージ 減災だんじり



ひとぼうステージ 渚中学校放送部映像作品のお披露目上映



ひとぼうステージ タバティ・タバタ「サマーフェスライブ」

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約 / TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>

開館時間	9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)		
	※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)		
入館料金	大人	大学生	高校生/小・中学生
	600円(450円)	450円(350円)	無料
【障がい者】	大人	大学生	高校生/小・中学生
	150円(100円)	100円(50円)	無料
[70歳以上の高齢者] 300円(200円)			

※()は20人以上の団体料金
※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

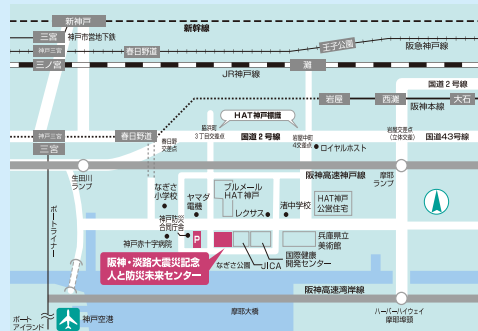
交通

鉄道 ・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

バス ・三宮駅から約15分

車 ・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり



新任研究調査員等紹介

研究調査員 藤原 宏之(ふじわら ひろゆき)

このたび三重県伊勢市から派遣されました藤原 宏之と申します。

私は、人と防災未来センターが整備された平成14年から防災、水防業務に携わっており、地域防災計画や津波避難計画などの各種計画整備や、職員向け訓練などの業務に従事してきました。主な災害対応経験は伊勢市において、平成29年台風第21号により約1,800棟の家屋被害が発生し、災害救助法が適用される災害対応を行いました。また、熊本地震、大阪府北部を震源とする地震では、伊勢市から被災自治体に対して資料作成等の遠隔支援を行い、平成30年7月豪雨では対口支援の三重県隊第一陣として、現地での支援を行っています。



多くの出会いと、知識、知恵が集まる人と防災未来センターは、施設の視察や研修の受講生、また、近年は研修の講師として、いつも楽しみに訪れていた施設です。ここで研究調査員として業務に従事できる貴重な機会をいただけたことを光栄に思います。

本センターへの派遣中は、「被災自治体が的確な時期に必要な支援を受けるためには」をテーマに研究を行いたいと考えています。また、研究調査員として様々な活動に挑戦したいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

震災資料専門員 三木 沙友理(みき さゆり)

10月から震災資料専門員に着任しました、三木 沙友理です。私は1989年に神戸市須磨区で生まれ、その後、滋賀県の大学に入学するまでの間、神戸の街で育ちました。専攻は美術史で、地元・神戸ともゆかりのある南蛮屏風について研究をしています。



私の思い出の傍らには、阪神・淡路大震災があります。まず5歳の時、私自身が阪神・淡路大震災を経験しました。震災によって、今まで当たり前であった電気や水が、とても貴重な物のだと知りました。遊び場だった公園には仮設住宅が建ち並び、町の景色の一つとなっていきました。震災から25年が経とうとしている今、その公園にもう仮設住宅はありません。記憶の中の風景も薄れ、具体的に何世帯の方がそこで暮らしていたのか、私自身、思い出すことはできません。

私が専攻している美術史には、過去に生きた人々が残したモノや記述を探し、調べ、考察するという研究方法があります。過去につくられたモノや記述は、何十年、何百年と時代を渡る内に、いくつかの情報が剥がれ落ちていきます。長い年月の中で忘れ去られ、現代に伝わることのなかった情報もあるでしょう。阪神・淡路大震災に関する記憶やモノが、年月の中で薄れていくのは当然のことなのかもしれません。けれど、そうならないように手を尽くすことはできます。一つでも多くの情報をこれからの世代に残し、活用してもらえよう、震災資料専門員として精一杯努めさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

当機構は、以下の組織で構成しています。

● 管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

● 人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

● ころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

● 研究戦略センター

▶ 研究調査部
TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

▶ 学術交流部
TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

ニュースターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください



Hem21 NEWS
vol.78

令和元年11月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<http://www.hemri21.jp/>